



社会のセイフティネットとしての小児医療と情報ソース

聖マリアンナ医科大学小児科学講座教授

清水 直樹

新型コロナウイルス感染症は収まるところを見せず、混沌とした毎日出口が見えない状況が続いています。医療従事者としても市民としても、感染制御と経済活動のバランスには夫々の立場で苦悩しますし、社会的弱者の切り捨てにも心が痛む昨今です。

小児の新型コロナウイルス感染症は一般に軽症とされ、その体制整備の国策は手厚くありません。小児病棟は成人患者増に逼迫され、対する小児医療は患者減で病院経営的には攻撃的です。しかし、軽症とはいえ医療的ケアを要するお子さん自身や保護者が新型コロナウイルスに感染したり濃厚接触者になったりすると、子ども達を保護する病棟は決して十分ではありません。被虐待児も同様の危険を抱えており、乳児院や児童相談所は困惑しています。大阪では集中治療室が不足して、小児集中治療室にまで成人が入室しはじめました。危機的状況に小児医療側が協力することは正しい一方で、小児医療を如何に維持するかも考えなければなりません。小児医療は社会の重要なセイフティネットのひとつですので、平時は非効率であっても、社会的弱者である子ども達を護るために様々な状況を想定した準備を怠らないことが肝要です。

日本小児科学会主導の COVID-19 症例登録システムが数か月前から稼働し、すでに 1,000 例近くの小児症例が登録されました。入院だけでなく外来症例も登録される国際的にも稀有なレジストリで、軽症といわれる小児での特性が解明されてゆく基盤となることでしょう。医療従事者の皆様にあっては是非この登録を進めて頂き、市民の皆様はリアルタイムの分析結果も含めてご参照頂けますと幸いです。

(https://www.coreregistry.jp/CoreRegistry_COVID19_CRF_Dashboard/Home/DashBoardviewer)

その他の情報源となる小児 QQ オンラインは、スマートフォンからも参照できる信頼性の高い小児救急関連情報ソースです。#7119 は特に横浜市で推進されておりますが、これは救急車を呼ぶべきか否かのトリアージが目的です。対して#8000 は、病院受診をすべきか否かをはじめとした市民の不安を少しでも軽減できるよう、わが国の小児科医が旧来から大切に育ててきた電話相談窓口です。新型コロナウイルス感染症に関する相談も可能ですので、市民の皆様におかれましては是非ご利用ください。#8000 は 24 時間体制となっている都道府県がほとんどですが、神奈川県は深夜対応不可能のままとなっている数少ない県のひとつであることも問題です。

子ども達を護るための様々な課題に対し、市民の皆様にも声をあげていただき、改善を共に追求していきたいと思います。